

IV 計画の内容

1. **ENGARU** (Ecology, Energy, Education)

環境、エネルギー、教育

(1) 現状と課題

- ◇ 環境に関する意識は、原油価格の大幅変動による省エネルギーの取り組みなどにより高くなってきています。また、日常生活においても率先して環境に配慮した実践行動に取り組む傾向にあります。
- ◇ 特に原油価格の高騰から、光熱水費が上昇したことにより、節電・節水などの省エネ対策は日常生活の中で実践されてきています。
- ◇ まちの環境は、おおむね良好な状態であるため、地球環境規模の変化に気がつかないことがあると思われます。
- ◇ 平成 20 年度に、遠軽町地域新エネルギービジョンが策定されており、太陽光発電システム普及のためのモニター事業及び設置補助事業を展開しています。しかし、導入に対する意識については、関心は持っていますが、初期設置価格が高いことが、普及の障害となっています。
- ◇ 学校教育の中では、環境に関する授業や活動が行われていますが、地域における環境に関する教育活動は、特定の分野を除き、実践されていない状況です。

(2) 目標

- ◎ 良好で快適な環境の恵みを受けるために、地球規模まで見据えた環境保全の意識の高揚を図ります。
- ◎ 環境に貢献する意識を持った中で、新エネルギーの導入や省エネルギー行動の実践を進めます。
- ◎ 地域・事業所において、環境に関する講演やセミナーなどを実施して、住民・従業員の環境に対する意識の醸成を図ります。また、町はこれらの行動に対して支援・協力を努めます。
- ◎ 次世代を担う青少年への環境教育の強化及び地域での環境に関する情報提供やセミナーなどの開催による環境保全に対する啓蒙を進めます。



(3)基本施策

町 民	<ul style="list-style-type: none">・ 家庭での環境教育 家族で環境について話し合ってみましょう。・ 太陽光発電システムなどの新エネルギーの導入 環境にやさしい(家計にもやさしい)新エネルギーの導入を検討しましょう。・ 節電及び節水など、省エネルギー対策の推進 使っていない家電のコンセントは抜く(待機電力削減)、水の出しっぱなしはしないなど、できることから取り組みましょう。・ 環境セミナーなどへの積極的参加 家族みんなで参加しましょう。
事 業 者	<ul style="list-style-type: none">・ 従業員の環境教育 環境について、みんなで話す機会を作りましょう。・ 新エネルギーを活用した製品等の研究・導入 地球にやさしい製品の開発、環境に配慮(経費にも配慮)した新エネルギーを研究・活用しましょう。・ 事務所等での節電・節水、エコな車両利用など、省エネルギー対策の推進 こまめな電源のオン・オフ、無駄のない水の利用、燃費を考えた車両運転に心がけましょう。
町	<ul style="list-style-type: none">・ 事務・事業における環境へ配慮した施策の展開 ペーパーレス化、ウォームビズ、クールビズの実施など、日常の事務・事業から環境を意識した取り組みを進めます。・ 公共施設等の省エネルギーの推進、新エネルギーの積極的導入、設置者に対する助成等対策 公共施設等の暖房の適正な温度管理、太陽光発電等の設置の推進、町民の新エネルギー導入に対する助成措置などを推進します。・ 新エネルギーの導入及び省エネルギーへの取り組みの啓発 広報等を活用した啓発活動を推進します。・ 環境教育に関連した広報及びセミナー等の開催 特に青少年を対象にした教育を推進します。

2. ENGARU (Nature , Natural)

自然、自然界

(1)現状と課題

- ◇ まちの豊かな自然環境は、町民生活の基盤であり、貴重な財産であります。
- ◇ この自然環境は、広大な森林、きれいな川により、澄んだ空気、おいしい水を提供してくれており、快適な生活環境にあることは、十分認識されています。
- ◇ 森林や河川は、生活を送る上で重要な役割を持っており、一度汚染などを起こすと回復には多大な時間と経費を必要とするものであります。森林や河川の持つ多面的機能を継続的に発揮させるためにも現状を確認し、対応する必要があります。
- ◇ 町内には、希少な野生動植物がたくさん生息していますが、種類、生息域や植生域など知られていないことがあるため、保護保存などが十分ではありません。
- ◇ 現在の自然環境と共に生活を行い、次の世代に良好で快適な状態で引き継ぐために、どのような行動を起こしていくかが最大の課題です。

(2)目標

- ◎ まちの自然環境を把握し、アウトドア体験などにより自然とふれあう機会を多くして、自然と共生・共存するまちづくりを進めます。
- ◎ 森林や河川などの自然環境が有する多面的機能について、その役割が発揮できるように監視を進め、保護・保全対策を図ります。
- ◎ 希少な野生動植物の生息環境を守るために、関係機関と連携してデータ収集を行い、保護保存を進めます。
- ◎ 町民・事業者及び町がそれぞれの責務により実践するとともに、自然環境保全活動を一体となって推進します。



画
佐
々
木
真
哉

(3)基本施策

町民	<ul style="list-style-type: none">・ 森林浴やトレッキングなど積極的な自然とのふれあい 心身の健康管理にも有効な自然とふれあう機会を作りましょう。・ 日常生活における自然環境保全への意識 日頃から、意識して周辺の自然環境の変化について観察するなど、自然に関心を持って生活しましょう。・ 生態系を壊さないよう、特に外来種のペットの適正飼育 ペットは責任を持って飼育し、野放しなどは行わないようにしましょう。
事業者	<ul style="list-style-type: none">・ 事業活動に当たり、自然環境に配慮した整備及び保全 木の伐採は、必要最小限に留め、植樹を行うなど、周辺の環境に配慮した活動をしましょう。・ 製造・加工等の事業活動における、土壌、大気及び河川汚染防止への配慮 粉塵や排ガスなどを適正に管理しましょう。また、排水は適正に処理しましょう。
町	<ul style="list-style-type: none">・ 自然とふれあう場を提供するための立案・実施 自然観察会や体験学習など、気軽に参加できるイベントを実施します。・ 自然を活用したエコツアー（ジオツアー等）の実施 町内はもとより町外からの参加者を募り、交流人口を増やして観光産業の振興を図ります。・ 森林や河川の多面的機能維持のための普及啓発 森林の水源涵養や空気の清浄、河川の浄化などの機能について、汚染状況等をチェックし、周知するとともに、機能維持のため対策を図ります。・ えんがるレッドデータの作成 町内に生息する希少な野生動植物を関係機関と協力し、保護保存を図ります。

3. ENGARU (Green, Global warming)

緑（森林）、地球温暖化

(1)現状と課題

- ◇ 地球温暖化問題は、世界的に温室効果ガスの排出量削減に向けてさまざまな取り組みが行われていますが、削減目標に達していないのが現状です。
- ◇ 町内では、1年間に約262,900tの二酸化炭素が排出されています。
(二酸化炭素排出量は、遠軽町地域新エネルギービジョンより引用)
- ◇ 二酸化炭素の排出を抑制して、地球環境に貢献することが必要です。
- ◇ 森林は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を有しており、地球温暖化対策には欠かせないものです。また、このほかにも森林は水源涵養機能、土地の保全、野生動植物の生息・生育等、多面的機能を多く有しています。
- ◇ まちの面積の約90%が森林であり、森林の保護育成は、環境施策を進めていく上で重要であります。
- ◇ 花を中心とした緑化の取り組みが行われておりますが、植物には、二酸化炭素を吸収する機能があることから、緑化運動をさらに進めていく必要があります。

(2)目標

- ◎ 地球温暖化防止を常に意識して、二酸化炭素排出削減について、さまざまな面において取り組みを進めます。
- ◎ 森林の多面的機能を発揮させるため、計画的な森林の保全・整備を進めます。
- ◎ 二酸化炭素削減のため、節電、節水などの省エネ対策及びエコドライブに努めます。
- ◎ 家庭、地域等において、緑化を積極的に推進します。
- ◎ 森林バイオマスの多角的な利用を促進します。

STOP!温暖化



(3)基本施策

町民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭における地球温暖化防止対策 節電、節水、省エネ対応の電球等の利用、適正な室温の設定、急発進・急加速・アイドリングや空吹かしを控えたエコドライブなど、地球温暖化防止を意識して二酸化炭素排出抑制に努めましょう。 ・ 環境に配慮した生活様式の改善 近いところは車を使わないで自転車や徒歩で移動、マイ箸・マイカップ等の持参で使い捨て製品を使わないなど、生活様式を変えてみましょう。 ・ 森林の適正な保全・整備の推進 計画的な整備・更新を行い、森林の持つ多面的機能が発揮できるよう保全しましょう。 ・ 敷地内の緑化の推進 花壇やプランターなどに花や木を植え地球温暖化防止に貢献しましょう。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動における地球温暖化防止対策 節電、節水、省エネ対応の電球等の利用、適正な室温の設定、急発進・急加速・アイドリングや空吹かしを控えたエコドライブなど、地球温暖化防止を意識して二酸化炭素排出抑制に努めましょう。 ・ 森林の適正な保全・整備の推進 計画的な整備・更新を行い、森林の持つ多面的機能が発揮できるよう保全しましょう。 ・ カーボンオフセットの活用や事業の導入・研究 森林が二酸化炭素を吸収する機能を活用した事業の導入や研究を進め、地球温暖化防止に向けた活動を進めましょう。 ・ 事業所及び現場等の緑化の推進 木や花を植えて、緑化を進め、地球温暖化防止に貢献しましょう。
町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化防止対策の実践 節電、節水、省エネ対応の電球等の利用、適正な室温の設定、エコドライブなど、率先して地球温暖化防止のため、二酸化炭素排出抑制を実践します。 ・ 地球温暖化対策に関する情報等の配信や普及啓蒙 まちの取り組みなど、広く情報を提供し、普及啓蒙を図ります。 ・ 計画的な森林整備計画の推進及び町有林の保全・整備 長期的な計画により、町有林の保全・整備を推進します。 ・ 民有林に対する適切な指導、助成、植樹事業等の実施 森林保全のため、除間伐などに対する指導や助成、また植樹推進を図ります。 ・ 森林バイオマスの多角的な利用計画の策定 林地残材などの活用について、調査・研究を推進します。

4. ENGARU (Amenity, Agriculture, Ambitious)

快適、農業、意欲的な

(1)現状と課題

- ◇ 平成 17 年 10 月の町村合併により誕生した新「遠軽町」は、1,332.32 ㎢と道内の市町村で 4 番となる広大な面積を有し、その約 90%は森林であり、緑の多い地域であります。
- ◇ 第 1 次総合計画のアンケート調査において、遠軽町の自然環境の美しさ、緑の豊かさ、川の水質など、自然に関する満足度は高くなっていますが、自然環境対策について、今後の重要性も指摘されています。
- ◇ 快適な生活や事業活動を行うためには、快適な環境が必要であり、これを維持するためには、さまざまな取り組みが必要です。
- ◇ まちの基幹産業である農業は、自然景観、安全な農畜産物の生産など、環境と密接にかかわる産業であります。特に、森や川は安全・安心な食料を供給するために必要なきれいな空気や水を提供するものであることから、自然環境の重要性を認識しなければなりません。

(2)目標

- ◎ 地域の歴史や文化、住民活動など資源や特徴を生かした環境活動を行います。
- ◎ 環境対策に関する町民の関心は高いことから、行動に結びつく体制づくりを行います。
- ◎ クリーン農業の推進、安全・安心の PR を行い、えんがるの農畜産物の地産地消を推進します。
- ◎ 堆肥等の有機物施用による土づくりなど、農業の自然循環機能の推進を図ります。



(3)基本施策

町 民	<ul style="list-style-type: none">・地域の環境活動に積極的に参加 清掃や緑化活動に家族ぐるみで参加しましょう。・地域の特徴を生かした環境づくりに積極的に協力 先人から受け継いだ美しい環境を守り快適なまちづくりに協力しましょう。・まちのクリーンな農畜産物の地産地消の推進 食卓にえんがる産の肉・野菜などを多く取り入れましょう。
事 業 者	<ul style="list-style-type: none">・農村景観の保全など、農村づくりの推進 圃場や畜舎周辺など、景観に配慮した農村づくりを進めましょう。・クリーン農業の推進のため、化学合成農薬、化学肥料の使用の抑制 土づくりのため、完熟堆肥等を活用し、減化学農薬・肥料を進めましょう。 また、農業用廃プラスチックの再生利用や副産物の利用など、循環型農業を推進しましょう。・地産地消を促進し、農畜産物生産・加工の研究開発の推進 地域への流通を推進し、新たな２次加工の研究を進めましょう。
町	<ul style="list-style-type: none">・地域の特性・文化を生かした環境施策の推進 農村景観を活用した快適なまちづくりのため、実施体制をつくり推進します。・クリーン農業推進のための農業施策の展開 土づくり、堆肥製造、減化学肥料などに対して、調査・指導を図ります。 また、農業用廃プラスチックの再生利用の促進や各種情報の提供に努めます。・地産地消を促進し、農畜産物生産・加工の調査研究の促進 地元生産・地元消費の促進と、生産・加工の調査研究を関係機関と協力し推進します。

5. ENGARU (Reduce, Reuse, Recycle)

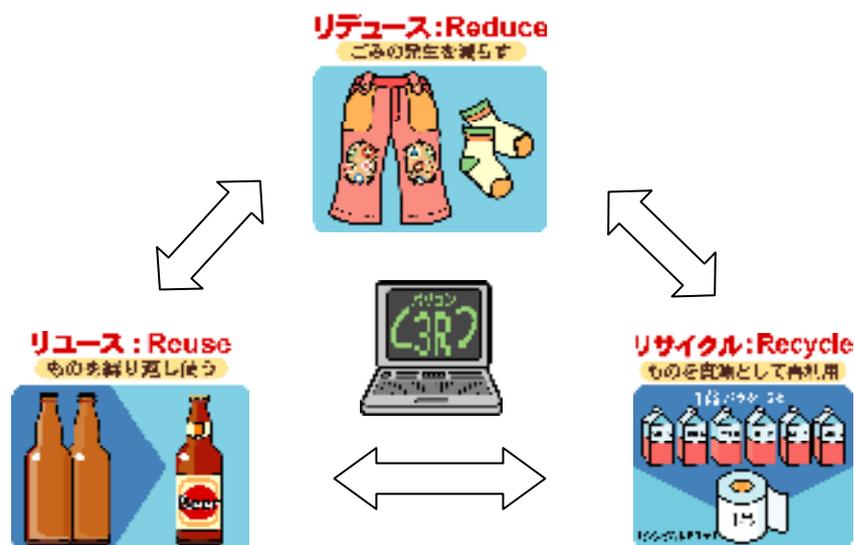
減らす、再利用、再資源化

(1)現状と課題

- ◇ まちのごみ処理・収集事業は、比較的早くに分別収集と有料化が取り組みされており、ごみは減少傾向、リサイクル率は向上傾向にあることから、ごみ処理及び排出抑制に対する意識は高いものと伺えます。
- ◇ 地域、団体、学校などでは、町民の協力を得て、リサイクル活動が行われており、再利用・再資源化の普及・啓蒙につながっています。
- ◇ 町では、ごみの減量化に向けて、生ごみ処理機の導入に対する助成を実施しており、また、リサイクル活動に対する奨励事業も実施しています。
- ◇ 資源の有効利用と環境への負荷を減らすために、ごみ排出量の抑制、再利用、再資源化を進める循環型社会づくりをさらに意識づけして推進することが重要です。
- ◇ 日常生活において、ごみが環境に影響を与えていることを自覚して、減量化（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）の3Rを積極的に推進する必要があります。

(2)目標

- ◎ 無駄を省いてごみの減量化（リデュース）に努めるとともに、適正な分別処理を行います。
- ◎ 地球環境を意識した中で、限りある資源を守るため、再利用（リユース）・再資源化（リサイクル）を推進します。
- ◎ 地域の循環型社会をつくるため、積極的にリサイクル活動に参加します。
- ◎ 法律に基づいたごみ処理を行い、不法投棄は行いません。



(3)基本施策

町民	<ul style="list-style-type: none">・生活ごみの適正な分別 ごみの分け方・出し方に従い、正しくごみは出しましょう。・リサイクルの積極的導入 家庭でのリサイクルを進めましょう。また、地域等で行うリサイクル活動に積極的に参加しましょう。・環境を意識した買い物、計画的な購入、余分なごみ（レジ袋・過剰包装の辞退などによる）の抑制 余分なものは買い控え、計画的に買い物を行いましょう。マイバックを持参してレジ袋の削減や不要な包装は断るようしましょう。
事業者	<ul style="list-style-type: none">・産業廃棄物の適正処理 法律や条例に基づき、適正に処理しましょう。また、廃棄物抑制のための研究を進めましょう。・事業活動において、ごみ排出量抑制の実施 ごみ抑制に努め、再利用・再資源化に向けた取り組みを進めましょう。・商品の過剰包装や容器・パッケージ等の見直し・研究 ノーレジ袋、マイバック持参や包装の省略などを積極的に進め、省資源化を推進しましょう。・廃棄物等の循環的利用の研究 原材料・製品等が廃棄物となることを抑制するとともに、循環利用できるような調査・研究しましょう。
町	<ul style="list-style-type: none">・計画的、効率的なごみ収集体制の充実 必要に応じ、ごみの収集に関して見直しを行い、充実したごみ収集に取り組みます。・ごみ分別の徹底、排出マナーなどの啓発 町民・事業者等に対し、ごみ処理マナーなどの啓発を図ります。・事業者に対する産業廃棄物等の適正処理の指導 法律や条例等に基づき適正に処理するように指導を行います。・循環型社会システムづくりの推進 リデュース・リユース・リサイクルを基本に、ごみ減量と再資源化に向けたシステムづくりを推進します。

6. ENGARU (Utopia)

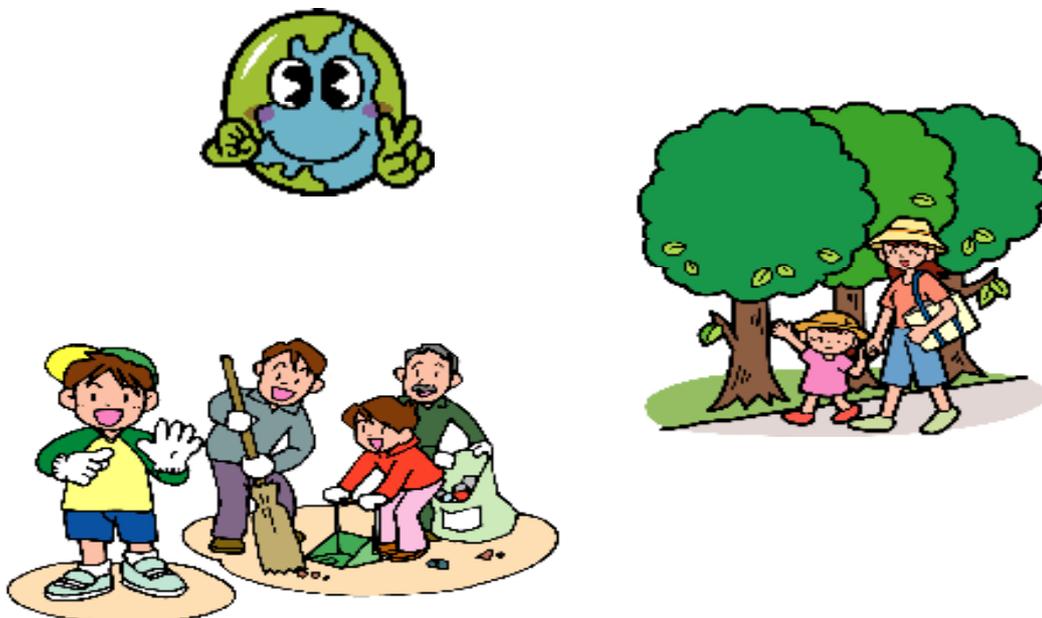
理想郷（理想的な地域環境）

(1) 現状と課題

- ◇ 町民・事業者及び町はそれぞれの立場で環境保全・保護活動を行っていますが、環境は、ここに住むすべての人々の共有の財産であることを認識して活動を行わなければなりません。
- ◇ 先人から歴史や文化とともに受け継がれた自然環境は、循環型社会を形成し、良好な状態で次世代へと引き継ぐためにまちづくりを推進しなければなりません。そのためには、地域全体で環境保全を進めるシステムづくりや自主的に取り組む人づくりが必要です。
- ◇ 生活を送るには、環境に対する負荷をゼロにすることはできませんが、できるだけ小さくする努力をしていかなければなりません。
- ◇ 「豊かな自然と共生・共存するまち」を目指して、理想的な暮らしの場・訪れる場・ふれあいの場などとなるよう、自然環境がまちのシンボルであると誇れるまちづくりを進めなければなりません。

(2) 目標

- ◎ 環境負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会を目指します。
- ◎ えんがるの風土にふさわしい、うるおい、安らぎ、ゆとりある環境づくりを進めます。
- ◎ 地域環境を生かし、自然と共生・共存する農・林・工業や生活に密着した商業、町内外の人々がふれあい楽しむ観光などの産業振興を進めます。
- ◎ すみごちの良いまちづくりのために、自然環境の保全・保護と生活環境の整備を町民・事業者及び町の協働により推進します。



(3)基本施策

町 民	<ul style="list-style-type: none">・家庭や地域において、環境に関する知識と理解を深め、環境に配慮した生活の実践 健康で快適な生活を送るには、様々な環境が良好に保たなければなりません。日頃から、無駄やもったいないの意識を持った生活に心がけ、家の周りや地域の環境状況を観察したり整備するなど、家庭から環境について考え、生活しましょう。
事 業 者	<ul style="list-style-type: none">・環境事業導入のための調査・研究の促進 地域環境を生かした産業づくりに向けた調査・研究を進め、産業振興・雇用の場の確保に向けた事業の育成を図りましょう。・自然環境等を活用した産業の振興 農・林業は、まちの自然環境に密接した産業で基幹産業でもあります。自然環境に配慮しながら振興を図るとともに、他産業との連携や消費の拡大に向けて、取り組みましょう。
町	<ul style="list-style-type: none">・地域環境保全のための施策の推進、必要な助成等の措置、下水道等の生活環境整備の推進 暮らしの場としての機能・役割を確保・充実させ、生活環境を良好に保つため、すみごこちの良いまちづくりを推進します。・公園、緑地等の公共施設を自然環境に配慮した整備の推進 やすらぎ、憩いの場として、緑豊かな公園等の整備を推進します。・町民・事業者（NPO等団体含む）及び町による協働の促進 情報を共有し、共通の認識の中、協働により、えんがるの環境を守り、育て、循環型社会づくりを推進します。